

ケース 6.3 東南アジアの移民国家のジレンマ——マレーシア

アジアの小龍経済台頭の第 2 の波に乗って登場したマレーシアは、高い経済成長を達成してきた。このことがマレーシアに移民過程の変遷を生みだした。今でも多くのマレーシア人が海外へ移民しているが、移民の受入も急増しているのである。移民には高度技能労働者となってさまざまな国より帰国する帰還マレーシア人も含まれている。また、近隣の紛争諸国よりの難民も含まれるようになった。しかし、移民の多くは不法就労している労働移民であり、インドネシア、バングラデシュ、フィリピン、タイよりやってきた人々である。今日マレーシア移民政策は、経済的、政治的な諸要因によって大きく動揺している。

今日、マレーシアはアジア諸国のなかでもシンガポールに続いて 2 番目に多い外国人人口を抱えている国 (12%) になっている (ILO, 2007: 39)。マレーシアは多民族国家、中流社会国家になっている。複雑な民族構成となったのは、植民地時代に錫鉱山やゴムプランテーションの労働力を調達するために、労働者を外国より輸入したからである。2005 年の人口 2,600 万人のうち、マレー系人口が 62%、中国系人口が 24%、インド系人口が 7%、その他が外国人 6%となっている (UNDP, 2007)。経済運営に成功したため、1980 年代より急速な経済成長と工業化を達成し、アジア小龍経済台頭の第 2 の波に乗ることができたが、同時にプランテーション労働者の不足も急拡大した。マレーシアは結果として 1980 年代中頃という早い時期に、移民送出国から労働移民を中心とした移民受入国に変容した。リンは、この理由を主に 2 つの理由で説明しようとする。第 1 の要因は多民族国家であり、歴史的な移民ネットワークを再利用し外国人が集まりやすかったことである。第 2 の要因は、輸出指向経済政策を採用し海外投資を積極的に受け入れたことである (Lim, 1996)。

マレーシアは今では移民出国と移民受入の双方を経験している。低技能労働者マレーシア人はシンガポール、台湾、日本で働いている。中流階層に属す中国系マレーシア人とインド系マレーシア人はシンガポール、オーストラリア、北アメリカに移住している。しかし、入移民のほうが出移民を上回っている。2000 年には、85 万人が外国人登録をしていた (Abella, 2002)。その約 3 分の 2 はインドネシア人であり、他は少数のバングラデシュ、フィリピン、タイからの外国人である (IOM, 2000: 85)。非登録の非正規移民の数は、約 100 万人と見積もられている。移民労働者たちはプランテーション、建設現場、工場やサービス産業の重要な労働力である。東マレーシアに位置する、サバやサラワクなどの島嶼地域では、マレーシア半島地域より外国人労働者への依存度は高く、2000 年には 70 万人の外国人がおり、その多くはインドネシアとフィリピンからの人々であった。島嶼地域は、何世紀にもわたり、海外との民族的および商業的なつながりを持ち、域内の循環的な人口移動が自由に行われていたより広い海域の一部である (IOM, 2000: 87)。

マレーシア政府は出入国管理、国境警備、外国人不法就労者の正規化や合法化キャンペーンの強化に努めてきた。1998 年、アジア金融危機に対応するため、政府は 100 万人を限

ケース 6.3 東南アジアの移民国家のジレンマ——マレーシア

度に、外国人人口を減らす計画があることを明らかにした (Pillai, 1999)。しかし、長い海岸線をもつ国境の完全な警備は不可能に近いうえに、国内非登録不法就労者の識別は困難であった。マレーシアの雇用者は、外国人労働者を工場やプランテーション労働者として雇い続けようとしたが、それらはマレーシア人国民には魅力のない仕事だったからである。1998年に関する統計では実際に帰国したのは20万人にすぎなかった。2002年8月には、不法移民を抑止するため、高い罰金や鞭打ち刑、最高5年の懲役などを含む厳しい罰則をとともう法律を導入し、数千、数万のインドネシア人やフィリピン人が、母国の用意した海軍船に乗って帰国するという事態になった。この出国させられた人々のなかには、ビルマのロヒンギャからの人々や、インドネシアのアチェからの人々で迫害を受けた避難民もいたことが人権団体によって明らかにされた (BBC, 2002)。マレーシア政府は、2004年から2005年にかけて、非正規労働者に対する恩赦を実施することにした。非正規労働者は一度インドネシアに帰還させられたが、その後、合法的に再入国を許されることになったのである。しかし、合法化された労働者は、80万から120万人いると見積もられている不法就労者のうちの38万人にすぎなかった (ILO, 2007: 54)。恩赦の効果は、マレーシアの外国人労働力を増加させるものであり、外国人労働者人口は推計ではあるが、260万人になった (Skeldon, 2006)。

外国人労働者の削減に失敗したことは、マレーシア経済が外国人労働者に構造的に依存していることを示す。これはマレーシアにおいて外国人の長期定住が生じていることを意味するのであろうか。カッシム (Kassim, 1998) によれば、クアラルンプールの不法占拠者の集住地区に外国人労働者も集住し、エスニック・コミュニティが形成され始めていることが明らかである。さらに、サバでは家族呼び寄せは当たり前になりつつあり、マレーシア半島地域では、家事労働者やホテル労働者としてインドネシアやフィリピンからの女性移民が急増している (Pillai, 1999: 181-2)。女性移民の増加は家族形成につながり、長期滞在者を増やしていくであろう。

1995年以來、マレーシアでは移民問題が大いに政治化されて、メディアにおける論争や政治家の声明のなかで頻繁に取り上げられるようになった (Pillai, 1999: 182-6)。これは、移民たちが短期滞在者ではなく、予期せぬ社会的、文化的な結果を生み出す存在だとの認識が広まったことに原因がある。農業経営者や建設産業や州政府の一部は移民労働者の雇用増加を支持しているが、マレーシアの労働組合会議 (TUC) は国民労働者の仕事と賃金に、移民労働者の雇用増加は影響するとの理由から反対し、中国系政治家のグループは、インドネシアからの移民は、中国系に不利な方向に民族バランスを崩す可能性があるとの理由で反対している。与党のUMNO (統一マレー国民組織) と野党のイスラーム政党PAS (全マレーシア・イスラーム党) は、双方ともインドネシア人の移住は、マレー系とイスラーム教の立場を強めるうえで役に立つとして歓迎している。非登録移民はメディアによりしばしば公の秩序と公衆衛生への脅威だと頻繁に報じているが、移民を支持しているNGOは増加している。とくに女性の権利向上を求める「テナガニータ」(Tenaganita) の理事で

あるアイリーン・フェルナンデスが、不法移民収容センターの生活条件の酷さを批判して告発されたが、それ以降論争は大きくなった (Jones, 2000)。

【参考文献】

- Abella, M. I. (2002) 'Complexity and Diversity of Asian Migration', (Geneva 1-19).
- BBC News (2002) 'news.BBC.co.uk.english/world/asia-pacific:23/1//02.'
- ILO (2007) *Labour and Social Trends in ASEAN 2007* (Bangkok: International Labour Office Regional Office for Asia and the Pacific).
- IOM (2000) *World Migration Report 2000* (Geneva: International Organization for Migration).
- Jones, S. (2000) *Making Money Off Migrants: The Indonesian Exodus to Malaysia* (Hong Kong and Wollongong: Asia 2000 and Centre for Asia Pacific Social Transformation Studies).
- Kassim, A. (1998) 'The case of a new receiving country in the developing world: Malaysia' in Nations, U. (ed.) *Technical Symposium on International Migration and Development* (The Hague, the Netherlands, 29 JUNE - 3 JULY 1998).
- Lim, L. L. (1996) 'The migration transition in Malaysia'. *Asian and Pacific Migration Journal*, vol. 5: nos. 2-3.
- Pillai, P. (1999) 'The Malaysian state's response to migration'. *Sojourn*, 14:1,178-97.
- Skeldon, R. (2006) 'Recent trends in migration in East and Southeast Asia'. *Asian and Pacific Migration Journal*, 15:2, 277-93.
- UNDP (2007) *Malaysia Facts and Figures-Malaysia People*. (New York: United Nations Development Programme) <http://www.undp.org.my/>, accessed 23 March, 2007.